

令和7年度 神田幼稚園・東員保育園 自己評価書

評価基準(④.目標を上回って達成した ③.目標通りに達成した ②.目標を少し下回った ①.目標を大きく下回った)

	内容	評価	成果	課題(今後に向けて)
1	子ども理解をし、一人一人の子どもの発達を支える園づくりに努めましたか。	3	・子ども一人一人と向き合い、人権を尊重する関わりを心掛け、認め言葉を掛けていくよう意識してきました。今の子どもの姿を捉え、どんなことを促していくと良いのかを考え、アプローチの仕方を多方面から学び合い、試行錯誤していくことで子どもの成長に繋がっていききました。	・保育者自身が遊びの本質を理解できていないこともまだまだある為、この遊びでは何が育つのかということを探っていきます。そして、子どもの育ってほしい姿からどんなことをねらっていくのかを明確にし援助していけるよう、より一層自己研鑽に努めていきます。
2	職員間の連携を深め、力を合わせて教育目標の達成に取り組み、それぞれの個性を発揮した豊かな環境づくりに努めましたか。	3	・相担同士が連携をとり、日々の子どもの姿から手立てを考え、発達を見つめなおす機会を多くもつようにしてきました。お楽しみ会・運動会・動物園ごっこ等も同じねらいを掲げて進めることができました。 ・人的・物的環境を含め、保育者の意図を確認し合いながら、子どもの思考力を促すような環境づくりを強化してきました。	・全体月案で各学年の報告を聞き、子どもの姿を掴むことはできましたが、大切にしているポイントを伝えながら発言する力が弱いので、要点をしっかりと押さえ、高め合っていきます。また、学年を隔てての縦の繋がりが弱いので、コミュニケーションを多くとるよう意識していきます。 ・研修の方向性を研修係と提案者がしっかりと話し、今の課題を皆で討議できる手法を考えていきます。
3	研修成果を実践に活かし、子どもの学びを支える力につなげることができましたか。	3	・園内研修では、保育観察やビデオ実践をしたことで視点に沿った見方ができ、子どもの姿を掴むことができました。また、研修後の変化についても話し合う時間をもつようにしたことで、課題意識を継続することができました。 ・CLM研修では子どもの行動の要因をさぐる視点を改めて認識しながら、スモールステップで支援していくことができ、個やクラスに大きな変化がみられました。	・保育者自身が遊びの深め方や発達に合った環境を考えていくことが難しくなっているので、研修で学んだことを活かしたり、専門的な立場から情報を得たりして役立てていきます。 ・自分の保育を分析し、ねらいや意図を説明できるよう、これまで以上に研修内容を深め、それぞれが意見を出し合う機会を増やしていきます。
4	あらゆる場面を想定した命を守る取り組みを行い、危機管理の意識を高めることができましたか。	4	・ヒヤリハットが起こった時には全職員で共有し、繰り返さないための意志統一をしてきました。特にアレルギー児対応については誤配がないような日課を組み、職員同士の連携をより深め、危機管理意識を高め合うことができました。 ・特に災害対応、不審者対応では、実際に想定できることをイメージすることで、必要なものを考えて準備するようになってきました。	・アレルギー対応、災害対応、不審者対応等、様々な時間や事象を想定してどう動くことが最善か考え提案し、ブラッシュアップしていきます。また、どの時間帯でも人数把握をし、パートを含む全職員が共通認識して的確な判断をし行動できるようにしていきます。
5	東員町16年一貫教育プランに基づき、連続した学びの充実や、小中との連携を深めることができましたか。	3	・16年一貫教育プランの視点を意識しながら保育を行なってきました。特に今年度はメディアに代わる遊びの提案をし、保育参観でカード等の親子遊びを一緒にする機会を設けることで、思考しながらやりとりをしていく大切さを実感してもらいました。そういった保護者への啓発はもちろん、小学校の先生との交流の中でも、遊びの交流をしたことで近い存在となり、情報共有がしやすい関係になりました。	・年長児の担任を中心に、交流を行う上でのねらいを明確にし、交流後に職員同士が具体的な子どもの姿を話し、連続した学びにつながるよう保育観を共有していきます。 ・メディア視聴時間が年々増え続けている傾向にある中で、相互にやりとりする大切さを小中とも共有し、家族を巻き込んで啓発していけるような生活調べの取り組みをしていきます。
6	保護者の子育ての悩みを受け止め、適切な子育て支援に努め、保護者との信頼関係を深めることができましたか。	3	・保護者の思いに寄り添いながら、家庭でも取り組めるような関わりを意識して対応してきました。 ・文章でやりとりするだけでなく、登降園の際に保護者の方と積極的に詳しく話をするように心掛け、子どもの様子を伝えるようにしてきました。 ・外国籍のお子さんへの配慮を意識し、声をかけるようにしてきました。	・保護者の相談等を聞いてから、その後の関わりを具体的にサポートしていける様に支援していきます。また、配慮を必要とする保護者、発信の少ない保護者へも、偏りなく意識して関係をつくっていきけるようにしていきます。 ・たよりで啓発してもしっかりと読むことが苦手な保護者が多くなっている中、わかりやすい伝え方を模索していきます。